

兵庫県立但馬やまびこの郷主催  
令和2年度 不登校に関する研修会

これからの不登校支援のあり方  
— 全ての子どもを支える  
ソーシャル・ボンドについて考える—

令和2年8月11日(火)

前兵庫教育大学大学院学校教育学研究科  
特任教授 池島徳大  
(元奈良教育大学大学院教授)  
Ph.D.(学校教育学)  
元臨床心理士・学校心理士SV  
日本ピア・サポート学会会長

1

### 不登校対応のポイント

- (1)不登校問題は、進路(生き方)問題である。  
・心の問題だけにとらえないで、広く「進路問題」ととらえ、学校教育の特質をふまえ、心理面へのアプローチだけでなく、社会面、学習面、進路面、健康面からのチーム支援を行う。
- (2)子どももっている援助資源を活用し、リレーションづくりを中心とした、予防的・開発的生徒指導を進める。  
・子どもを学級(学校)につなぎとめるソーシャルボンド(関係の束)を強めるため、集団を質のよい集団に改善し、学校適応感を高める。
- (3)子ども、保護者の願いや戸惑いを受け止め、がんばりを支える。  
・二次的問題の発生を阻止し、安心して自分の言いつを表現できる居心地のよい場を提供し、信頼されているという関係(絆)をつくる。家庭・学校・相談機関等と、何で繋がるかを構築した上で、「チーム支援」を行い、環境調整を図る。
- (4)不登校になることは悪ではない。
- (5)Trial & Error

2

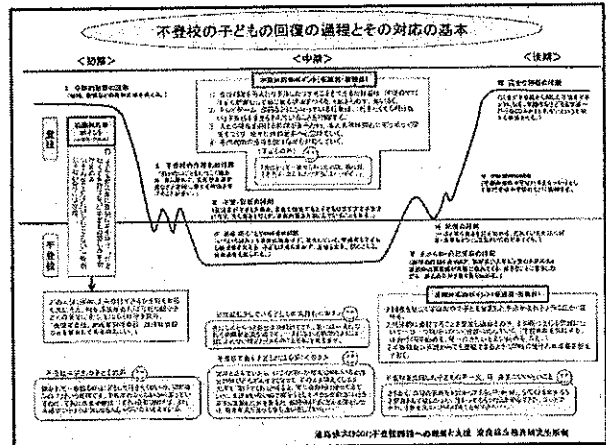
### キーワード

安心・表現・絆の形成

心の扉をひらくマスターキーとは何か

人として成長しようとする原動力は、  
自分は愛され、認められていると実感し  
確信を得ることである。

3



4

### 心の扉を開ける3つのプロセス

— 良好な関係をつくるために—

- ・第1段階 **ワンネス (One-ness)** **ねぎらい**  
響く。相手の身になろうとする  
「わかるう」とする  
ワンダウンポジション・尊重  
判断保留(epoche) **極めて有効な初期対応**
- ・第2段階 **ウィネス (We-ness)**  
支える。相手の役に立つことを一緒に考えようと提案する態度
- ・第3段階 **アイネス (I-ness)**  
自分の気持ちと自分の考え方を打ち出す  
こちら側の伝えるべきことを伝える

Moustakas' model of relationship (1995)

5

### 演習1

A君が、登校してきたとき、「先生、5時間目にある算数の宿題、やってくるのを忘れました」と言いに来ました。

- ・第1段階 **ワンネス (One-ness)** **ねぎらい**  
「よく言いに来たなあ」  
「君が宿題を忘れるなんて、どうかしたのかな？」
- ・第2段階 **ウィネス (We-ness)**  
「5時間目まででできることは、どんなことがある？」  
「私に手伝ってほしいことは何かあるかな？」
- ・第3段階 **アイネス (I-ness)**  
「今日はきちんと言いに来てくれて(先生は)えらいと思ったよ」  
(ポジティブな自己開示)  
「明日からは、わすれないでちゃんとやってくるんだよ」(自己主張)  
「わからないところがあったら、いつでも尋ねていいよ」(自己主張)

参考：米田 (2007)

6

**日常的によくある応答**  
—順序が逆になっている—

- ・第3段階 アイネス (I-ness)  
「ダメじゃないか！ほんとにもう！」(ある意味、自己開示)  
「宿題をしてもらうことはきみにとっては最も大事な仕事なんだぞ」(自己主張)  
「先生は、きみの将来のことを心配して言っているんだ」(自己主張)
- ・第2段階 ウィネス (We-ness)  
「で、これからどうするんだ。えっ！」  
「するの？しないの？」
- ・第1段階 ワンネス (One-ness)  
「今日はどうしたんだ？タベ体調が悪かったのかい？」

参考：米田 (2007)


7

**演習2**  
「先生、教室のガラスを割ってしまいました」と  
言ってきた小学生

- ・第1段階 ワンネス (One-ness)
- ・第2段階 ウィネス (We-ness)
- ・第3段階 アイネス (I-ness)

8

**グッド・シェパード・ルーテル学校**  
(Good Shepherd Lutheran School, Australia 2013)



<学習指導>

算数ができない子には、算数を教える。  
本読みができない子には、読み方を教える。

ところが  
<行動がうまくできない子には>

これまで私たちは、( )を与えてきた。  
<しかし今、行動がうまくできない子には>


「 」という方法をとっている。

9

**すてきな頼み方①**

(例) 消しゴムを忘れてしまったので、隣の席の友だちに消しゴムを貸して欲しいと頼みました。

- (1) 相手の名前を呼ぶ。(〇〇さん)
- (2) 相手の都合を聞く。(今、ちょっといい？)
- (3) 頼みごとの内容を言う。(消しゴム貸してほしいんだけど)
- (4) 頼みごとの理由を言う。(消しゴム忘れてしまったので)  
○相手が「うん、いいよ。」と言って貸してくれました。
- (5) 相手にお礼を言う。(ありがとう)




10

**納得のいく断り方②**

(例) 消しゴムを忘れてしまったので、隣の席の友だちに消しゴムを貸して欲しいと頼みました。

<納得のいかない断り方>

- (1) あやまらない
- (2) 断る理由を言わない  
「イヤ！」「だめ！」「…(無視)」

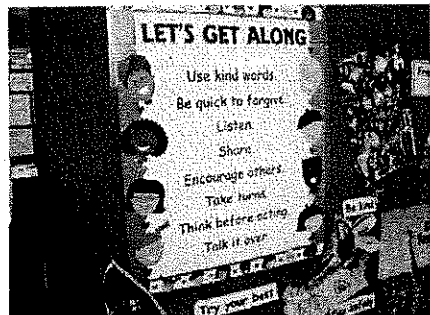


<納得のいく断り方>

- (1) 相手にあやまる (ごめんね)
- (2) 断る理由をいう (今、私も使っているの)
- (3) 提案する (使い終わったら貸してあげるね)

11

**R-12 School**  
オーストラリア・ニューサウスウェールズ州 2008/11月



12

## コメント・ワーク①

ねえ、お母さん。  
 どうしておばあちゃん死んじゃったの。生きていてくれればいいのに……。

13

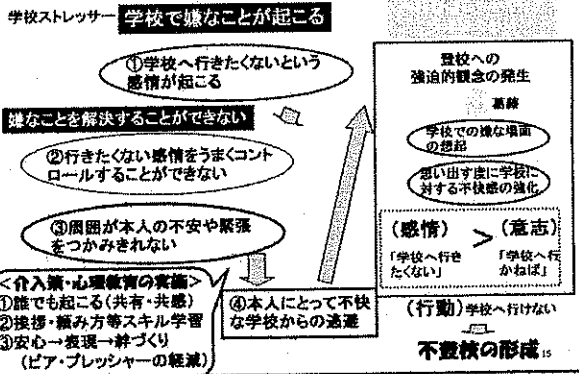
## コメント・ワーク②

5月1日

今日ハイキングだったのに、朝のうち雨が降っていたのでハイキングに行かれました。おやつもせっかく買って来たのに行けなかったのがっかりしました。楽しみにしていたのに、雨が降ったので、もういやになりました。お母さんがせっかくリュックサックやごみを入れるふくろやタオルを用意してくれたのに雨がふったので、みんな、なおさないとだめになりました。ほんとうにいやになりました。

14

### 学校忌避感情からくる不登校の発生機序



15

### ○赤ちゃんにお母さんが優しく接することで

お母さんは私の見方だ!!  
 この人についていていいんだ!!  
 と感じ、愛情を肌で受け取る。

愛情を確信する

肯定的な内的ワーキング・モデルを確信

### ○問題行動を繰り返す子どもの口癖は?

どのような確信をもっているのか。

- ①どうせ親は、(自分のことを) \_\_\_\_\_ と思っているに違いない  
 ②いつも先生は、\_\_\_\_\_ と思っているに違いない  
 ③どうせ友だちは、\_\_\_\_\_ と思っているに違いない

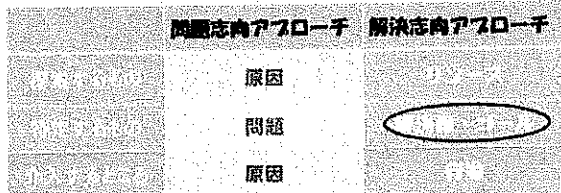
否定的な内的ワーキング・モデルを確信

<閉鎖・援助を行っていく際に必要なこと>

- ①内的ワーキング・モデルは、乳幼児期から青年期にかけて、愛着対象(親・先生・友だち)との相互の体験において、どのような応答が返ってきたかという体験の繰り返しによって得られる。  
 ②内的ワーキング・モデルに最も強い影響を与えるのは、まず親や周囲の人々、教師や友人の「情緒的サポート」が影響する。

16

### 問題志向アプローチと 解決志向アプローチ



解決志向ブリーフ・セラピー; Solution-focused brief therapy  
 (Peter DeJong & Insoo Kim Berg 1998)

17

### 解決志向アプローチ(SFA) の基本哲学

- ①もしも、上手くいっているなら、それを治そうとするな。  
 ②もしも、一度でも上手くいったのなら、それをもっとせよ。  
 ③もしも、上手くいっていないのなら、違うことをせよ。

(de Shazer, S 1987)

18

## 解決志向アプローチ(SFA) の活動姿勢

- ・ 偶然うまくいったできごとを探してさらに実行する
- ・ 実行可能な目標を立て、小さな変化を目指す
- ・ 全体を通じて賞賛する
- ・ どんなやりかたでも、結果的にその人が望むようになれば良い

(森・黒沢 2002)

19

## 日本の学校教師の守備範囲の広さ

＜学校現場は解決すべき「応用問題」の宝庫である＞

石原(1996)を参考・追記

20

### Leaking Model (雨漏りモデル)

いじめ・不登校・非行等の減少へ

ソーシャルバンド(関係の束)を構築し、集団の質を高め、学校適応度を高める

子どものコミュニケーション能力の指導を行う

すべての子どもに対して、良質なコミュニケーションを大量に提供するプログラムの実践を行う

子どもを(社会的)集団につなぎとめる「ソーシャルバンド」が減少してしまっている

ソーシャルバンドは社会集団からの集団の予備要因である (Hirschi, 1969)

21

### ピア・サポートの力

集団の質の改善  
(特別活動の出番)  
自分(たち)の力で乗り越え成長する

仲間(たち)に助けを求めたり、お互いに支え合う力を育てる。

子どものニーズに応じて大人が集中的に支え、自分でがんばることができる力を育てる。(チーム支援(保護者含む))

22

### 学校適応感尺度(アセス)の質問項目(1)

◎生活満足感(生活全般に満足していると感じている)

- ① 気持ちがすっきりしている
- ② まあまあ、自分に満足している
- ③ 気持ちが楽である
- ④ 自分はこのびのびと生きていると感じる
- ⑤ 生活がすごく楽しいと感じる

★ 学習満足感因子(学習に対する不安が少なく、授業についていけていると感じている)

- ① 勉強のやり方がよくわからない
- ② 勉強の問題が難しくすぐにあきらめてしまう
- ③ 授業がよくわからないことが多い
- ④ 勉強についていけないのではないかと不安になる
- ⑤ 自分は勉強はまあまあできると思う

★ 社会的関係因子(友だちからいじめやからかいなどを受けていないと感じている)

- ① 友だちからからかわれたり、バカにされることがある
- ② 陰口を言われているような気がする
- ③ 仲間に入れてもらえないことがある
- ④ 友だちにいやなことをされることもある
- ⑤ 友だちから無視されることがある

23

### 学校適応感尺度(アセス)の質問項目(2)

◎教師サポート因子(先生から適切なサポートを受けていると感じている)

- ① 担任の先生は私のことをわかってきている
- ② 担任の先生は、私のことを気にしてくれている
- ③ 担任の先生は信頼できる
- ④ 担任の先生は困ったときに助けてくれる
- ⑤ 担任の先生は私のいいところを認めてくれる

★ 社会的スキル因子(人に対して積極的に働きかけていると感じている)

- ① あいさつはみんなにしている
- ② 落ち込んでいる友だちがいいたら、その人を元気づける自信がある
- ③ 困っている人がいたら、進んで助けようと思う
- ④ 友だちや先生にあつたら、自分からあいさつをしている
- ⑤ 相手の気持ちになって考えたり行動する

★ 友人サポート因子(友だちから適切なサポートを受けていると感じている)

- ① いやなことがあったとき、友だちは慰めたり励ましたりしてくれる
- ② 「いいね」「すごいね」と言ってくれる友だちがいる
- ③ 悩みを話せる友だちがいる
- ④ 友だちは、わたしのことをわかってくれる
- ⑤ 元気がないとき、友だちはすぐ気づいて、声をかけてくれる

24

## ある中学校での取組み

学級活動指導案(別紙プリント)

- 1 対象学年 中学校3年A学級
- 2 題材「自分のことを話してみよう」
- 3 ねらい  
進路に対して不安や悩みを抱えている仲間と共感できる場を設定し、受験への不安に伴って生じるプレッシャー、不安感、孤独感を共有し、心の癒やしを図る。

25

25



26

26

## すてきなあいさつをしましょう

- 1 目をみて  
(友だちの名前を呼んで)
- 2 すてきな笑顔で
- 3 聞こえる声で
- 4 はきはきと



27

27

## イギリス・ロンドン市内小学校での ピア・サポート活動

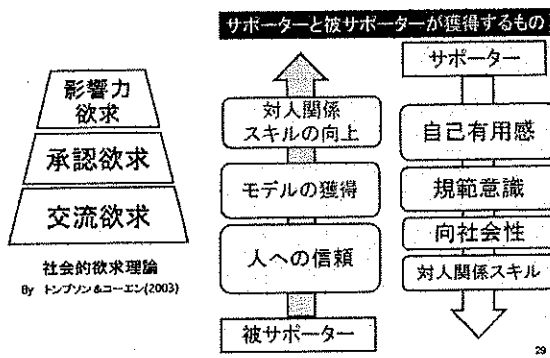
2019/2月



28

28

## ピア・サポートと欲求充足



29

29

## 子どもの道徳性の発達段階と キーパーソン

Bull, N.J. (1977)

	道徳以前 (アノミー)	他律	社会律	自律
キーパーソン	自分 (本親)	親・教師	友だち	自分 (理性)
動機	自分の 快・善	大人から の賞・罰	仲間から 与えられる 快・善	自分自身の 理性的 判断
主な発達 形態(例)	～したい から～する (しない)	～に罰られ るから～す る(しない)	仲間はずれ にされたくな いから～す る(しない)	自分がしてほ しいから他 どの人にも～ する(しない)

30

30

小学校学習指導要領（特別活動の目標）

（平成29年告示、平成32年4月1日施行）

第1目標

**集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、**  
 様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの  
 よさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課  
 題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を  
 育成することを目指す。

31

31

特別活動の目標つづき

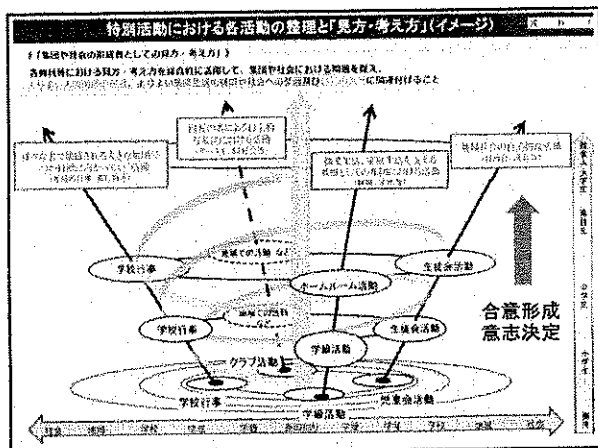
(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義  
 や活動を行う上で必要となることについて理解し、  
**行動の仕方を身に付ける**ようにする。

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだ  
 し、解決するために話し合い、合意形成を図つ  
 たり、意思決定したりすることができるようにする。

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付け  
 たことを生かして、**人間関係をよりよく形成する**及  
 とともに、自己の生き方についての考えを深め、自  
 己実現を図ろうとする態度を養う。

32


32



33

(参考)『遊戯療法の8つの基本原則』

(V.M.Axline 1947)



(1911~1988)

- (1) 子どもとのよい治療関係を成立させる。  
(Establishing rapport.)
- (2) 子どもの完全な受容を行う。  
(Accepting the child completely.)
- (3) 許容的な雰囲気をつくる。  
(Establishing a feeling of permissiveness.)
- (4) 適切な感情の認知と反射を行う。  
(Recognition and reflection of feelings.)
- (5) 子どもに尊敬心を持ち続ける。  
(Maintaining respect for the child.)
- (6) 治療は子どもが先導する。(The child leads the way.)
- (7) 治療は緩慢な過程である。(Therapy cannot be hurried.)
- (8) 必要な制限を加える。(Limitations are necessary.)

34

34

(参考)遊戯療法における治療過程モデル

- I 模索・防衛期
- II 自己開示期
- III 攻撃性拡大・発散期
- IV 創造と再構成・転換期
- V 安定・離反期

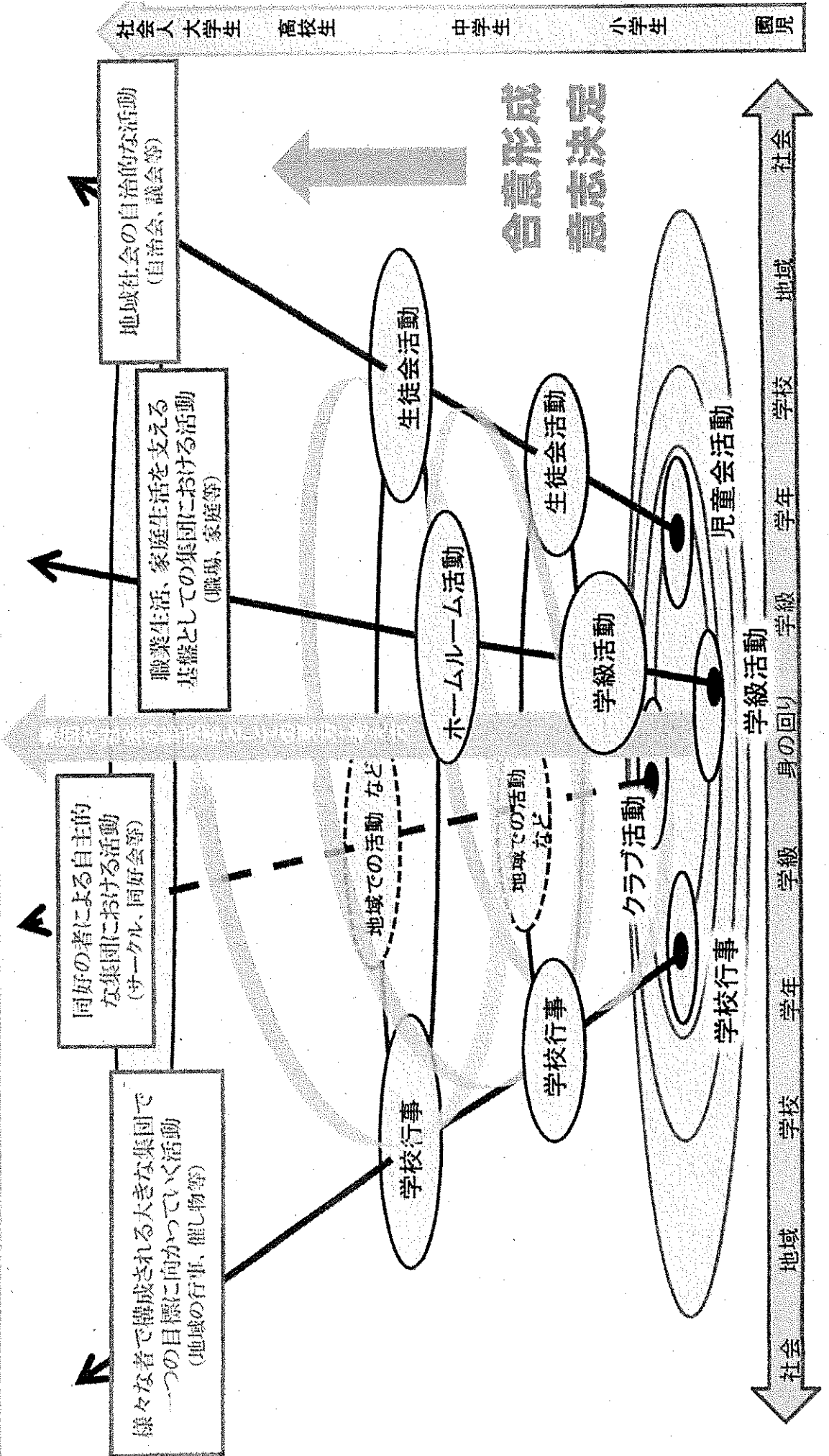
池島(1997)

35

35

《「集団や社会の形成者としての見方・考え方」》

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること



# 不登校の子どもの回復の過程とその対応の基本

## <初期>

I 身体的緊張などの身体症状を訴える。

初期対応のポイント(保護者・教職員)  
 ○子どもの言葉に耳を傾け、「行きたくても行けない子どもの言しみを憂へ止めよう(『そんなとほはいたことな』『飯病じゃないの？』は禁句)」

登校

不登校

どのように援助したら登校できるかを親も教員も共に考え、何か方法があれば可能な限り子どもも要望に応じ、しほらく様子を見る。  
 (保健室登校、保護者同伴登校、放課後登校などを提案してみるのもよい。)

不登校中学生の子どもの声  
 聞かれて一番困るのは「どうして行きたくないの。何が嫌なの？」という質問です。それがわからないから困っているのよ。それに先生や親は、「それ」を取り除けば、また元通りに行けるよという言ひを聞いていないのよ。

## <中期>

中期対応のポイント(保護者・教職員)

- ① 登校刺激を与えたり干渉したりすることをできるだけ避け、家庭の中に子どもが安心して過ごせる状況をつくる。(あきらめず、粘り強く)
- ② テレビゲーム、漫画などにふけついている行動は、「行きたくても行けない」不安感をまぎらわしていることを理解する。
- ③ 人との接触を避ける傾向があるため、本人の興味関心に寄り添って関係を築き、徐々に外の世界へと広げていく。
- ④ 専門機関の指導を受けながら対応していく。

II 不安・動揺の段階  
 (行かないことをしつこく聞かれ、苦し紛れに、先生や友達に嫌など学校に関する理由を挙げる人が多い。)

III 不安・動揺の段階  
 (保護者が子どもを責め、登校を強要すると子どもはますます不安定になり、落ち着きなく、家庭内暴力を起していることもある。)

IV 絶望・閉じこもりの時期の段階  
 (いろいろな試みでも無理は解決せず、悪化していく。保護者も子どもも絶望感を覚える。子どもは落ち着かず、生活も乱れ、閉じこもる。昼夜逆転も見られる。)

登校逆転をしている子どもの気持ち<中3>  
 夜になるとやっとな自分の時間ができた。私には一人になれる時間が必要なんです。一人になれる時間には話さなければいけないほどたくさん話を聞かれます。

不登校である子どもが語る夢<中2>  
 友達と遊んでいたら、いつの間にか教室の中にいると自分の体がどんどん小さくなって、このまま消えてしまおう。大声で「助けてくれ」と叫ぶと、家に自分だけ帰ってきていた。友達がいなくて探そうとしてペラペラの方に行きガラス窓越しの外を見ると、戦慄が駆け抜けた。また、戦慄が走り回って寝か合いをしていて...

## <後期>

Ⅳ 完全な回復の段階

(完全に不登校から脱した生活をできるようになる。保護者も子どもも学校へ行くようになるかもしれないという不安から解放される。)

Ⅴ 学校復帰の段階  
 (学期の始めや学校行事をきっかけとして専門学校や学校のもとに復帰する。)

Ⅵ 回復の段階

(一段と落ち着きを見せ始める。忘れていた生活に戻り、尿・食事などに生活リズムが出てくる。)

Ⅶ あきらめ・自己受容の段階  
 (絶望の時期を過ぎ、親が長い人生だと責任を決めると、家庭内の緊張感が次第に取れてくる。好きなことに集中しながら、過去の自分を振り返り始める。)

後期対応のポイント(保護者・教職員)

- ① 回復を信じて家庭の中で子どもも安定した生活が送れるように温かく見守る。
- ② 具体的に登校することを想定し始めるので、その際に生じる問題について一つ一つ親身になって相談に応じていく。(学習進捗を気にする。体力づくり始める。塾へ行きたいと言い始める。など。)
- ③ <教職員>何時からでも登校できるように学校の受け入れ準備を整えておく。

不登校を克服した子どもの声(父、母、先生にいろいろ話した)もかく、自分の気持ちも分かってもらいたかった。少なくとも分かってもらう努力をして欲しい。分かってもらったとき安心できた。ほっとできた。それを支えにがんばることができた...



## 学校適応感尺度(アセス)の質問項目(1)

### ◎生活満足感(生活全般に満足していると感じている)

- ①気持ちがすっきりとしている
- ②まあまあ、自分に満足している
- ③気持ちが楽である
- ④自分はこのびのびと生きていると感じる
- ⑤生活がすごく楽しいと感じる

### 学習適応感因子(学習に対する不安が少なく、授業についていけると感じている)

- ①勉強のやり方がよくわからない
- ②勉強の問題が難しいとすぐにあきらめてしまう
- ③授業がよくわからないことが多い
- ④勉強について行けないのではないかと不安になる
- ⑤自分は勉強はまあまあできると思う

### 侵害的關係因子(友だちからいじめやからかいなどを受けていないと感じている)

- ①友だちにからかわれたり、バカにされることがある
- ②陰口を言われているような気がする
- ③仲間に入れてもらえないことがある
- ④友だちにいやなことをされることがある
- ⑤友だちから無視されることがある

95

## 学校適応感尺度(アセス)の質問項目(2)

### 教師サポート因子(先生から適切なサポートを受けていると感じている)

- ①担任の先生は私のことをわかってくれている
- ②担任の先生は、私のことを気にしてくれている
- ③担任の先生は信頼できる
- ④担任の先生は困ったときに助けてくれる
- ⑤担任の先生は私のいいところを認めてくれている

### 向社会的スキル因子(人に対して積極的に働きかけていると感じている)

- ①あいさつはみんなにしている
- ②落ち込んでいる友だちがいたら、その人を元気づける自信がある
- ③困っている人がいたら、進んで助けようと思う
- ④友だちや先生にあつたら、自分からあいさつをしている
- ⑤相手の気持ちになって考えたり行動する

### 友人サポート因子(友だちから適切なサポートを受けていると感じている)

- ①いやなことがあったとき、友だちは慰めたり励ましたりしてくれる
- ②「いいね」「すごいね」と言ってくれる友だちがいる
- ③悩みを話せる友だちがいる
- ④友だちは、わたしのことをわかってくれる
- ⑤元気がないとき、友だちはすぐ気づいて、声をかけてくれる

96



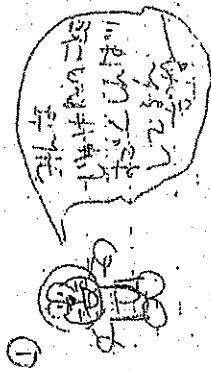
★ ふり返り用紙から

- ① この裏書きをやってみてどうでしたか。  
とてもよかった  

+2	+1	0	-1	-2
18人	14人	4人	1人	0人
- ② 自分のことをどのくらいはなしができましたか。  
全然話せなかった  

+2	+1	0	-1	-2
17人	10人	3人	1人	0人
- ③ 相手のことをどのくらい聞けましたか。  
十分聞けた  

+2	+1	0	-1	-2
18人	10人	3人	0人	0人



④ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

③ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

④ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑤ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑥ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑦ 外見だけでなく、内面も見てあげよう。話しをしたら、印象がどう変わったか。

⑧ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑨ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑩ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑪ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑫ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑬ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑭ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑮ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑯ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑰ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑱ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。

⑲ 相手の話を聞いて、自分の話をしようと思った人は何人ですか。